



学校だより

12月号

横浜市立大道小学校
令和3年11月30日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

激動の1年を振り返って ～感謝の思いを込めて～

今年も、残すところあと1か月となりました。振り返ると、今年も「激動」の1年でした。二度にわたる「緊急事態宣言」や、夏休み明けからの「分散登校」は、学校に大きな影響を及ぼしました。感染拡大防止のため、細心の注意を払いながら教育活動を進める一方で、「GIGA スクール構想」が急速に進み、一人一台の「タブレット端末」が配当されました。様々な準備や試行に追われる中、分散登校期間中には、タブレットを家庭に持ち帰って学習する取組を始めました。この1年で、子どもたちを取り巻く環境は、大きく変わったと思います。

通常授業に戻った10月からは、5年生の「自動車工場見学」、3組の「シーパラダイス遠足」、そして「大道ふれあい運動会」と、今まで我慢していたことを取り戻すかのように、様々な活動が始まりました。11月に入ると、全校「なかよし遠足」に出かけたのを皮切りに、1,2年生の「野毛山遠足」、4～6年生の「宿泊体験学習・修学旅行」が行われました。4年生は「バレエ教室」にも出かけました。盛りだくさんの内容で、日程も詰まっていたのですが、とても充実した2か月でした。

3組では、「長浜ホール」のコーディネートのもと、アーティスト・「虹のあそび隊」の皆さんと一緒に、「3くみスマイル水族館」の制作に取り組みました。「シーパラ遠足」の経験から、自分たちも水族館をつくりたいと考えた子どもたち、段ボールや新聞紙といった再利用品を使って形をつくり、そこに自分の好きな色を塗っていきます。みんなで協力して、大人の背丈ほどの「世界一大きなペンギン」と、「世界一カラフルなウミガメ」ができました。そこに、自分たちが創った生き物や、ビニール袋をつなげた「巨大イルカ」を泳がせて完成！ 子どもたちは、のびのびと自由に表現する楽しさや、思いが形になる喜びを存分に味わった3日間のプログラムでした。

通常授業の再開後、本校が大切にしたのは、「本物から学ぶこと」「子ども同士のつながりを深めること」「自ら考え、行動すること」、そして「達成感を味わうこと」です。どの取組でも、子どもたちのやる気に満ちた真剣な表情を見ることができました。そして、何とも言えない笑顔が溢れていました。「成長しているなあ。」と思える瞬間が、たくさんありました。「これこそ大道っ子！」と、私たちは嬉しくなりました。実感を伴った学びの大切さや、子どもの「やるぞ!」「楽しみ!」という意欲を高めることの大切さを改めて感じました。言葉にしてしまうと「当たり前」のことなのですが、今まで様々な制約があっただけに、それをますます強く感じるのです。

タブレット端末を使う場面では、驚くほど早く技能を習得する子どもたちです。これからも、ICT機器のよりよい活用の仕方について探るとともに、「大道が大切すること」を見失わないようにしたいと考えています。

保護者・地域の皆様に、いつも温かく見守っていただいたからこそ、私たちは「今できること」を(時には思い切って)実践できたのだと思います。惜しみないご協力をいただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

来年が皆様にとって、幸多い年になりますよう、お祈り申し上げます。